

ちようやどう

長夜洞通信

2023年1月1日

安養寺

448-0831

刈谷市熊野町6-25

0566-21-1644

新年あけましておめでとうございます。今回の通信は年間行事やご連絡を掲載しています。

よって喪中のご連絡を頂いた方にも発送しています。何卒ご理解のほどよろしくお願い致します。

VOL・20

宗祖親鸞聖人

御誕生

立教開宗

850th
800th

真宗大谷派(東本願寺)

〈慶讃テーマ〉



南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていこう

縁あって、刈谷市の食育推進委員会の一員として仕事をする機会がありました。バランスの良い食事を心がけたりすることをはじめ、食べることに様々なことを学んだり、話し合ったりしました。特に自分自身、関心を寄せていたことが「いのちをたべる」ということです。

幼いころから「いただきます」と言って「いのちをいただくことに感謝する」ことになんともなく分かったつもりで年を重ねていたとき、ある方から聞いた話が忘れられません。

死にたくないものを、どれだけいただきますといってもだめなんです。いただいているのではないのです。奪っているのです。差し出されたものならいただけますよ。しかし、絶対差し上げますとはいいませんからね。人間様のためなら、食べられてあげましょうという牛は一頭もいないでしょう。やめてくれ、やめてくれというのを殺すのです。

(佐野明弘さん『真宗の本尊』)

この話を聞いたとき、とても「感謝」という言葉や思いでは抑えきれないことを自分はしているんだと初めて感じました。

親鸞聖人は、戒律を護ることができないからと開き直って、ふんぞり返っているのではなく、「いのちをとって」しか生きられないことに悩み続けられたのだと思います。「いのちをとる」ことに決して「感謝」という言葉でふたをせずに、向き合い続けた生涯に学ばねばならないと感じる時間がありました。

今年は親鸞聖人の誕生850年・立教開宗800年の慶讃法要が勤まります。個人参拝もできますが、安養寺ではバスで団体参拝に行きます。是非ご予約ください。

親鸞聖人御誕生850年 立教開宗800年慶讃法要団体参拝

日程 2023年4月2日(日)

募集人数 20名(先着順、人数に達し次第締め切ります)

旅程 7:00頃 出発

10:30頃 東本願寺到着

午前中は桂小春団治さんによる慶讃寄席(真宗落語)「親鸞で行こう」を聴きます。

その後、御齋をいただきます。

午後からは、法要に参拝します。その他、催事もあり、丸一日を東本願寺の中で過ごします。

15:00頃 東本願寺出発

19:00頃 刈谷到着

2023(令和5年)年忌表

法要	亡くなった年	二十三回忌	2007(平成13年)
祥月法要	毎年の御命日	二十七回忌	1997(平成9年)
一周忌	2022(令和4年)	三十三回忌	1997(平成3年)
三回忌	2021(令和3年)	三十七回忌	1987(昭和62年)
七回忌	2017(平成29年)	四十三回忌	1987(昭和56年)
十三回忌	2011(平成23年)	四十七回忌	1977(昭和52年)
十七回忌	2007(平成19年)	五十回忌	1974(昭和49年)

誕生日に生まれた尊さを祝う現代風潮の中で、生まれたものはどんな者も命終えねばならないということが見えにくくなっています。命を生き抜いた方を通して、命の深さを感じる時間をいただきましょう。お内仏の繰り出し法名や過去帳を見てお調べ下さい。もしわからないことがあればご連絡下さい。法要の仕方、場所等ご相談があればお気軽にお問合せ下さい。

おごり

釋尼尊樹(坊守)

子供の頃、いくつか習い事をしていました。その中で、幼稚園から小学六年まで、一番長く続けたのがスイミングでした。スイミングは全身運動でよし、肺が強くなり、風邪も引きにくくなるとうよく耳にします。私も、その甲斐あつてなのか、身体は丈夫で、運動やスポーツも得意でした。

そんな思いもあり、娘にもスイミングを習わせることにしました。水の苦手な娘は毎週イヤイヤ言いながら通う日々でした。一年ほど通って少しずつ上達したのですが、ある日「どうしても行きたくない。やめたい。」といつもと違う真剣な表情で訴えてきました。

私はその時、続けてほしい気持ちが強く、なんとか頑張つて続けてくれないものかと色々と言を掛けました。しかし、何を言っても娘の気持ちには変わらず、家族で相談してやめる事になりました。

今振り返ってみると、私は自分の経験をおごり、娘に泳げた方が良いという価値観を押し付けて、苦しめていたのかも知れないと感じました。それだけ私たちは自分の成功体験を疑うことが苦手なのではない。私が望むものが娘の望むものではない。これから子供達と向き合つて生活していきたいと思いました。



安養寺では仏教に学ぶ集いを開いています

安養寺では仏教に学ぶ集い、「同朋会」をお昼に月2回、「仏教に学ぶ会」を夜に月一回開いています。いつからでも、どなたでも是非お越しください。一緒に学びましょう。

＜同朋会＞ 14:00～16:00 年会費 1,500円 会場 門徒会館長夜洞
『一念多念文意』に学ぶ 住職担当です。親鸞聖人最晩年の一つである著書に学びます。仏様を通じて新たな仲間とであいませんか。開催日は毎月18日前後です。

とき 1月17日(火) 2月17日(金) 3月16日(木) これ以降の開催日は会でご連絡

和讃に学ぶ 前住職担当です。あせらず、少しずつ、ゆっくりと仏教に学んでいきましょう。
開催日は毎月28日前後です。

とき 1月27日(金) 2月28日(火) 3月27日(月) これ以降の開催日は会でご連絡

＜仏教に学ぶ会＞ 19:00～20:30 年会費 1,000円 会場 門徒会館長夜洞
住職と前住職が交代でお話しをします。今年のテーマは「48願に学ぶ」です。丁寧にゆっくりと仏様の願いに触れていきましょう。夜ですでお仕事のあとでも是非お越しください。

開催日は毎月10日前後です。

1月10日(火) 2月9日(木) 3月9日(木) 4月10日(月) 5月10日(水) 6月8日(木)



「宗教・こわい考」

釋 長時(前住職)

日本人には、宗教に対し「人は宗教によって眠らされる」「怖い」ものだと捉えている人が多いといわれる。だからこそ、「あなたの宗教は何ですか」と尋ねると、「無宗教」と答える人が多数を占め、何か警戒されているようです。

私は仏教をこのように考えます。

宗教は決して「神仏」を背景にして、人の内面を支配し、習俗・習慣・社会秩序・伝統・儀礼等によって、人の生き方、死に方を強いるものではないということです。

ひょっとして「習俗化した神仏」が、私たちの生活の場で意識されないままに、仏教よりも深く浸透しているかもしれません。

インドは二千五百年余り前、カースト制という身分階級制による厳しい差別社会でした。それは今でも続いています。そんな社会構造を受容させる教えが、バラモン教(ヒンズー教)という宗教でした。その中で「静かな反抗者」として仏教を説いた人が、お釈迦さまでした。

仏教は、「眠らせる宗教」でなく「目覚めさせる宗教」です。

私たちの身近な念仏の先輩達は、こんな言葉で、浄土真宗の教えを伝えていきます。「人間一人ひとりバラバラで、一人ひとり違う。個々でいて、なお一緒という世界にたつ。」「一人ひとりはどうなときでも、人生の主人公なんだから、死ぬまで誇りを持ち続けましょう。」「賛美も装飾もいらない。ハダカのまま、かけ値なしで十分生きていける。」「

2023年(令和5年) 安養寺年間行事予定

3月20日(月) 春の彼岸のお勤め

午前10時～

3月25日(土) はなまつり

午前10時～

(お釈迦様の誕生日を皆さんでお祝いします。お子様、お孫様どうぞお参り下さい。お楽しみ会もあります。)

4月 8日(土) 春季祠堂法要

午前10時～

午後1時～

5月24日(水) 同朋大会

午後1時30分～ 於 専光寺

(刈谷市、安城市の真宗大谷派(12カ寺)のお寺主催の行事です。是非お参り下さい。)

5月28日(日) 納骨堂法要

午前10時～

午後1時～

8月13日(日) 初盂蘭盆会(初盆にあたる方) 時間は決まり次第ご連絡します

8月14日(月) 初盂蘭盆会(初盆にあたる方)

8月15日(火) お盆のお勤め

午前10時～

8月 末 夏休みお勤め練習

午前 7時～

(熊地区のラジオ体操に合わせて正信偈の練習をします。ゲーム大会やお楽しみ会もあります。)

9月15日(金) 安養寺日帰りバス旅行 (もし開催できれば)

9月21日(木) 秋の彼岸のお勤め

午前10時～

9月24日(日) 秋季祠堂法要

午前10時～

午後1時～

10月28日(土) 安養寺報恩講(親鸞聖人)

10月29日(日) 安養寺報恩講 御命日の法要です) 午前10時～ 午後1時～

法要やお勤めの会場は本堂です。

ご都合つけて是非お参りください。今年も皆様にお会いできることを楽しみにしています。



ちよつとしたうれしさ

釋尼 曜容(前坊守)

狭い道を歩いていたら、前から自転車がかかるので端の方で待っていました。その時「会釈をする人」「知らん顔していく人」いろいろな人がいます。

お店の入口・出口で同時になった時、ドアを開けて待つてくれている人。

順番待ちをしている時、年配の方、小さな子を連れてくる人に、座る席を譲る人。

そういう場面に遭遇すると「やさしさ」を感じ「うれしさ」に笑みがこぼれます。どんな時でも「ありがとう」「どういたしまして」

のお互いの気持が大切だと思います。当たり前と思っていることは当たり前ではなく、誰かがくれた「やさしさ」です。このことを忘れずに生きていきたいと思えます。

今年もよろしくお願い致します。

今年もよろしくお願い致します。

